

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）【理工学研究科（博士後期）】

1. 教育課程の編成・実施等

博士後期課程では、理学や工学の既成概念にとらわれない科学技術の高度化・多様化に順応できる幅広い視野、目覚ましい進展を遂げる科学技術に柔軟に対応できる能力を有する高度専門職業人及び研究者として活躍できる課題探究・問題解決能力並びに学際的課題を解決し得る柔軟で総合的な判断力の養成に重点を置いた教育を行います。

総合的な基礎学力を養成するために、専攻ごとに設定する講義科目を置きます。講義科目には、理学と工学のそれぞれの特徴を理解し、横断的な理解を深めるために、理系科目および工系科目を置きます。

問題の発見・提起・解決能力を養成し、柔軟な発想法や関連分野への取り組み方法を学ぶために演習科目を、課題や問題に対する問題解決能力や実践的能力を身に付けるために実習科目を置きます。最先端の研究動向・課題を概観するために特別講義を置きます。

【機能創成科学専攻】

- ・目覚ましい進展を遂げる科学技術に柔軟に対応でき、企業の即戦力として研究開発から生産に結び付けることのできる高度な専門職業人及び自立して研究開発のできる研究者の養成を教育の目標とします。理学と工学の融合による基礎と応用の一体化を展開し、学際的課題を解決し得る教育を行います。

【安全システム工学専攻】

- ・自然環境の保全、地域社会の安全・安心の向上等実践的に関わることができる、高度専門職業人及び研究者を養成することを教育の目標とします。理工融合を進めることにより学際的課題を解決し得る教育研究を行い、及び自然と調和した安全な社会の構築に必要な能力を修得するための教育を行います。

2. 教育・学習方法

- (1) 主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行います。
- (2) 自ら課題を見出し、その解決に向けて深く探究を進め、成果を発表するための実践的な能力を身に付けさせるため、学生が主体となる能動的な授業と研究をとおして教育を行います。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる成績評価基準を策定し評価します。
- (2) 各科目の学習成果の評価方法については、授業内容とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。